

チシマザクラの変異個体

— 美しき名花たち —

佐藤孝夫

チシマザクラとは？

サクラのルーツはヒマラヤ周辺に生えているヒマラヤザクラとされており、その仲間は主に中国や日本を中心に世界に約50種が自生しています。その中でもっとも北地や高地に生えているのがチシマザクラです。樹形はエゾヤマザクラやソメイヨシノとは異なり、根元から幹が分かれ出て斜上し、樹高はあまり高くならず枝が横に張り出します。花の色は一般には淡紅色をしています。道内各地の山地～亜高山や蛇紋岩地帯などに自生しており、利尻島の標高700～800m付近には大群落があり、北海道指定の天然記念物になっています。またサハリンや国後島、択捉島などにも分布しております。

チシマザクラはミネザクラ（またはタカネザクラ）の変種とされ、花柄や葉柄に毛があるものをチシマザクラ、無いものをミネザクラとされていますが、両者の明確な区別が難しいために、緑化樹関係では昔から慣れ親しんだチシマザクラの名を用いています。

チシマザクラはもっとも寒さに強いサクラであること、緑化樹としては北海道だけに植栽されており本州ではほとんど見るのできないサクラであることから、北海道立林業試験場ではこれまで全道各地のチシマザクラの花の色や形を調べてきました。その結果、花の色の濃淡や八重咲きなど多くの変異があることが明らかになりました。その代表的な個体を紹介しましょう。

花に特徴のあるチシマザクラ

1 紅色の花

北海道では一般に紅色のサクラが好まれる傾向があります。これまでチシマザクラの中で通常よりも濃い紅色と思われる個体が4個体ありました。

(1) 国後陽紅

根室市歯舞の個人宅にあるサクラで、これまで調べた中でもっとも紅色が濃いサクラです。国後島から持ち帰った母木からの実生苗から偶然出たものです。林業試験場では1992年から組織培養による増殖に取り組み、苗木を三笠苗畑遺伝資源集植所に植栽して特性を調べ、2005年1月に農林水産省へ品種登録の申請を行い、2007年8月に正式に品種登録されました（写真－1、2）。

(2) 紅花A

「国後陽紅」よりも少し淡い色の紅色の花を着けますが、周囲の個体の中では際だって紅く見えません。樹形が美しく、花着きがきわめて良いのも特徴です（写真 3）。母木は国後島産で、根室市歯舞の個人宅にあります。

(3) 紅花B

「国後陽紅」よりもやや淡い紅色で、「紅花A」よりもやや鮮やかな紅色をしています。花びらは5枚で、千島産の血を引いていますが、母木の産地は不明です。標津町内の個人宅にあり、育成者が色のできるだけ濃いチシマザクラを選んで播種した中から出たもので、約2000本植栽してある中でもっとも濃い紅色の個体です（写真－4）。

(4) 紅花C

鮮やかな紅色の花を着け、花びらの基部から先に向かって徐々に濃くなっていきます。花びらは5枚、今はまだ木が若く、あまり大きな木ではありません。千島産の血を引いていますが、母木の産

地は不明です。根室市内の個人宅にあります (写真-5)。



写真-1 チシマザクラ「国後陽紅」の樹形



写真-2 チシマザクラ「国後陽紅」の花



写真-3 チシマザクラ「紅花A」の樹形



写真-4 チシマザクラ「紅花B」の樹形



写真-5 チシマザクラ「紅花C」の樹形

2 八重咲きの花

エゾヤマザクラではクシロヤエ (釧路八重) という八重咲きの園芸品種がありますが、チシマザクラでは八重咲きの個体は見られませんでした。しかし、当場の調査でこれまで八重咲きが1本と、5弁の花と花弁が8~9枚の花を一緒に着ける木が見つかりました。

(1) 八重咲きA

完全な八重咲き個体で、花びらの数が多いものでは10枚以上あります。淡紅色の花びらにやや紅色のグラデーションがかかり、気品のある花です。宗谷地方中頓別町にある敏音知岳産の木で、

現在は土別市の個人宅にあります (写真-6)。

(2) 八重咲きB

前述したように花びらが5枚の花と8~9枚の花が混じって咲きますので、完全な八重咲きとはいえません。花びらが8~9枚のものは全体の15~20%程度です。これは2個の花が合着したもので、雌しべも2本が合着し、2個の果実ができます。幌加内町周辺の蛇紋岩地帯に自生していたもので、現在は朱鞠内湖畔に植栽されています。なお、これまでこのような個体は朱鞠内湖畔で2本確認されています (写真-7)。



写真-6 チシマザクラ「八重咲きA」の花



写真-7 チシマザクラ「八重咲きB」の花

3 淡紅色の花

チシマザクラでは淡紅色の花がもっとも多く見られます。この中にも花弁の形に特徴があったり、花弁にグラデーションがかかる個体、花着きのきわめて良い個体など特徴のある5個体が認められました。

(1) 淡紅色A

ややウメに似た円い花弁の花を着ける個体 (写真-8) で、きわめて花着きが良い上に、かなりの年数が経っているにもかかわらず樹高は1m程度とあまり大きくはありません。母木は国後島産で、根室市歯舞の個人宅にあります。

(2) 淡紅色B

花びらはやや小さく、花びらの基部は微淡紅色ですが先端は紅色になり、グラデーションがかかった花を着けます (写真-9)。いくつかの産地から知られていますが、幌加内町朱鞠内湖畔に植栽されている個体がかっこいいです。この個体は周辺の蛇紋岩地帯に自生していたものです。

(3) 淡紅色C

花びらの真ん中に縦に紅い筋 (線) が入った花を着けます (写真 10)。これもいくつかの個体が知られていますが、もっとも紅い筋が濃いものは美唄市東明公園にあります。しかし、原産地は不明です。

(4) 淡紅色D

花びらが細長いのが特徴の木で、道北地方の公園などで数個体が確認されています。いずれも道北地方の山地の自生木を母樹としていると思われます。花弁の中央に縦に淡い紅い筋が入るものもありますが、花びらと花びらの隙間が多くて花が小さく見え、鑑賞価値があまり高いとは言えません (写真-11)。



写真-8 チシマザクラ「淡紅色A」



写真-9 チシマザクラ「淡紅色B」



写真-10 チシマザクラ「淡紅色C」



写真-11 チシマザクラ「淡紅色D」



写真-12 チシマザクラ「白花A」



写真-13 チシマザクラ「白花B」

4 白色（～微淡紅色）の花

チシマザクラでは白色の花といってもわずかに紅色が混ざるものが多く見られます。白色の花を着ける個体は数個体確認されていますが、その中の1個体と、白色～微淡紅色できわめて多くの花を着ける個体を紹介します。

(1) 白花A

白色と言っても問題のない個体です。また、芽吹きの色は通常は赤褐色ですが、この木は緑色をしています（写真－12）。このような木は何本か知られていますが、和寒町の公園に植栽されている個体をもっとも花着きが良い個体です。原産地は不明ですが、道北地方の山地から出たものと思われる。

(2) 白花B

花びらはごくわずかに淡紅色を帯びていますが、かなり白っぽく見える木です。これまで見たチシマザクラの中で花着きをもっとも良く、枝先全体にたくさんの花がかたまって着くのが特徴です（写真－13）。根室市内の個人宅にあり、母木は千島産です。

もっとチシマザクラを植えよう！

日本に最も多く植えられているサクラはソメイヨシノですが、ソメイヨシノは同じ台木に接ぎ木されるために、全国どこでも同じ花を見ることができます。また、エゾヤマザクラは北海道で最も多く植えられています。クシロヤエ（釧路八重）という園芸品種があるほかに、花の色の濃い個体が知られているものの、それほど変異は多くはありません。

一方、チシマザクラは自生地が限られているうえにエゾヤマザクラに比べると植栽木の本数ははるかに少ないにもかかわらず、1本1本の樹形や花の色が異なっており、多くの個体変異が見られます。とても個性の強い樹種であるといえます。ここに紹介した以外にも花が枝先に手毬状に着く個体や花に強い芳香がある個体、樹高が低くて枝張りが10mを越すような大きな個体など、花の色や花びらの形以外に特徴のある個体も見つかっています。今後さらに新たな鑑賞価値の高い個体も見つかるかもしれません。

現在、組織培養で増殖され販売間近なものは「国後陽紅」だけですが、将来これらの中から新品種として市場に出てくるものがあるかもしれません。庭に植えてもよし、公園に植えてもよし、鉢植えにしても良しのチシマザクラはもっともっと植えられても良い木だと思います。

(道東支場)